

低炭素成長ナレッジ・プラットフォーム関係機関のグループ招へい

3月2日から8日まで、外務省の招へいで、東アジア低炭素成長ナレッジ・プラットフォームに参加している東アジア首脳会議(EAS)参加国から14名の政府機関、研究機関、大学関係者のグループが来日した。

【参考】招へい参加者の出身国

豪州、カンボジア、中国、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、韓国、ロシア、シンガポール、タイ、ベトナム

今回の招へいは、各国・機関の低炭素成長実現に向けた取組を共有し、同プラットフォームのあり方について議論するとともに、この分野での日本の取組や技術(産学協力、自治体・研究機関の取組、民間の持つ優れた技術)への理解を深めてもらうことを目的としていた。

各国の参加者からは、本政策対話は、低炭素成長に関するアイデアや経験を共有することができたこと、政府、自治体、民間、研究機関等、我が国の多様な主体による低炭素成長のための取組を直に見ることができたことに感謝の意が表明された。また、今後の協力への期待が述べられた。

それぞれの日程の概要は以下のとおり。

1. 低炭素成長についての各国・機関の取組(3月3日)

参加者の所属する国・機関における低炭素成長に向けた取組や研究について情報共有を行った。



2. 低炭素成長ナレッジ・プラットフォームのあり方についての意見交換(3月5日)

同ナレッジ・プラットフォームに参加している日本の機関(JICA, IGES, NIES, 北九州市, 東京都, 横浜市)からも参加を得て、同ナレッジ・プラットフォームが①ステークホルダーの意見交換, 協力, ②域内のネットワークづくり, ③域内協力, を促進するためにどのように

改善すればよいかについて活発な意見交換を行った。



3. 低炭素成長関連施設の視察

一行は、低炭素成長関連の公的／民間施設を視察した。環境負荷低減とエネルギー効率向上を世界最高水準で両立した高効率石炭火力発電所や、常温・常圧で取り扱いやすい水素を合成する技術を開発した企業を視察した他、国立環境研究所や筑波大学で研究者と意見交換した。北九州市においては同市の政策や、スマートコミュニティプロジェクト、エコタウン事業、リサイクル工場(ペットボトル、車、家電)を視察した。大分県では地熱発電所を視察した。



高効率石炭火力発電所視察



常温・常圧で取り扱いやすい水素を合成する企業視察



国立環境研究所視察



筑波大学視察



北九州市からの説明



北九州市スマートコミュニティプロジェクト視察



北九州市エコタウンセンター



リサイクル工場視察



地熱発電所視察



地熱発電所視察



別府市内視察

(了)